令和５年度　看護専攻科　学校評価及び第三者評価

1　グラデュエーションポリシー

令和6年2月22日

４：とても当てはまる　３：ある程度当てはまる　２：あまり当てはまらない　１：全くあてはまらない

評価観点・項目					評価内容	4	3	2	1	平均	評価	現状分析と今後の取り組み	学校関係者評価
①倫理観の育成	守秘義務を厳守し、対象の個人情報の保護に努める	1	学生	①	守秘義務を厳守し、対象の個人場情報を適切に取り扱うこと扱うことができる	24	9	0	0	3.7	A	○学生の自己評価はすべて3以上となり倫理観の育成はできていると考えられる。これは教員の自己評価からもわかるように、倫理観の育成の為に的確な時期に的確な方法で指導をしている成果と考える。 ○評価番号３の③、評価番号５が3.0と低い。今後は看護実践の評価を対象者の状態を考えながら評価ができるよう、指導する必要があると考える。 ○看護実践の創意工夫は学生の基本的な知識や技術の上に成り立つと思われる。まずは基本的な技術を身につけられるように、技術指導やフィジカルアセスメントの充実を図り、その後学生への発問をするなど創意工夫を求めるような指導が必要であると考える。 ○学生と教員の評価点の乖離が最も大きいものは評価番号４①である。 教員は学生の課題に気がついて指導しているが、学生はその指導に気がついていないのか、または学生が気がついていても課題解決に積極的に取り組んでいないかで今後の取り組み方が変わる。状況の確認を行いたい。 ○自己の課題を受け入れ、解決のための行動変容には多くの時間を費やすと思われる。繰り返し、長期に指導していく必要があると考える。	・倫理観の育成は学生時代に培うべき最も重要な観点である。その中で学生・教員ともによい評価があることは喜ばしいことである。 ・全ての項目において、教員評価に比べ学生評価が低い。 ・学生と教師との評価点数の差が幾分か見られるが、学生は自分に対して厳しい評価をつける傾向にあるのではないか。今後焦点化し、さらに分析を試みてほしい。 ・４①において１と答えている学生がそれぞれ1人ずつあり、評価も0.7の乖離がみられる。学生自身に自己の課題が何かを気づかせるような指導が必要であると考える。 ・学生は自己の取り組みについて反省を含めて厳しく見ているのではないか。それぞれ努力していると思う。
			教員	①	守秘義務を厳守し、対象の個人情報を適切に取り扱うよう指導している	8	0	0	0	4.0	A		
			学生	②	ケアの実施時にはプライバシーの保護ができる	19	13	1	0	3.5	A		
			教員	②	ケアの実施時にはプライバシーの保護の必要性を学生に説明している	8	0	0	0	4.0	A		
	対象となる人々に平等に看護を提供する	2	学生	①	対象者の価値観や生活背景を考えて看護を計画できる	8	25	0	0	3.2	B		
			教員	①	対象者の価値観や生活背景を考えて看護を計画するよう指導している	4	4	0	0	3.5	A		
			学生	②	受け持ちの患者以外ともコミュニケーションがとれる	9	18	6	0	3.1	B		
			教員	②	受け持ちの患者以外ともコミュニケーションがとれるよう指導している	3	4	0	1	3.1	B		
	自己の責任と能力を適切に認識し、実施した看護に責任をもつ	3	学生	①	ケアについて十分に説明し、対象者の意思決定を支えられる	7	23	3	0	3.1	B		
			教員	①	ケアについて十分に説明し、対象者の意思決定を支えるよう指導している	5	3	0	0	3.6	A		
			学生	②	ケアを実施する時に安全上行ってはならないことがわかる	13	20	0	0	3.4	A		
			教員	②	ケアを実施する時に安全上行ってはならないことを指導している	8	0	0	0	4.0	A		
			学生	③	実施した看護のプロセスや結果と対象者の全体像を結び付けて評価できる	4	26	3	0	3.0	B		
			教員	③	実施した看護のプロセスや結果と対象者の全体像を結び付けて評価するよう指導している	4	4	0	0	3.5	A		
			学生	④	対象者の反応が予測と異なるときに、教員や指導者に相談できる	11	20	2	0	3.3	B		
			教員	④	対象者の反応が予測と異なるときに、教員や指導者に相談するよう指導している	7	1	0	0	3.9	A		
	社会の人々の信頼を得るようにし、個人としての品行を常に高く維持する	4	学生	①	自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組むことができる	8	23	1	1	3.2	B		
			教員	①	自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組むことができるよう指導している	7	1	0	0	3.9	A		
			学生	②	専門職として生涯にわたり学習を続け、成長していくために自己を評価し、管理していく重要性について理解できる	11	20	2	0	3.3	B		
			教員	②	専門職として生涯にわたり学習を続け、成長していくために自己を評価し、管理していく重要性について指導している	4	4	0	0	3.5	A		
①倫理観の育成		5	学生		看護の実践をよりよくするために創意工夫することができる	4	26	3	0	3.0	B		
			教員		看護の実践をよりよくするために創意工夫することができるよう指導している	4	3	1	0	3.4	A		
②多職種との連携		6	学生		他職種の役割を理解したうえで看護職者としての役割を果たすことができる	6	27	0	0	3.2	B	○多職種連携はその必要性を理解し、実践できると学生は考えている。 ○チームメイトやクラスメイトなどとも協力しながら、問題を解決するように指導もできていると考える。	・学生・教員ともに必要性を理解し、実践できているため、指導の成果がでていると考える。 ・７において1人の学生が「2」と評価している。チームメンバーと必要な情報の共有があまりできなかったというのは、本人にとって実習が辛く苦しいものになったのではないかと危惧する。教員が早期に気づく必要がある。
			教員		他職種の役割を理解したうえで看護職者としての役割を果たすことができるよう指導している	4	4	0	0	3.5	A		
		7	学生		対象の健康問題の解決・回避に必要な情報をチームメンバーと共有することができる	12	20	1	0	3.3	B		
			教員		対象の健康問題の解決・回避に必要な情報をチームメンバーと共有することができるよう指導している	4	4	0	0	3.5	A		
		8	学生		対象の健康問題の解決・回避に向けてチームメンバーと協働することができる	11	22	0	0	3.3	B		
			教員		対象の健康問題の解決・回避に向けてチームメンバーと協働することができるよう指導している	5	3	0	0	3.6	A		
		9	学生		チームの一員としてより良い看護を実践するために、他者に支援を求めることができる	12	21	0	0	3.4	A		
			教員		チームの一員としてより良い看護を実践するために、他者に支援を求めることができるよう指導している	5	3	0	0	3.6	A		
		10	学生		看護を実践するために常に自己の健康状態に留意している	11	21	1	0	3.3	B		
			教員		看護を実践するために常に自己の健康状態に留意しているよう指導している	6	2	0	0	3.8	A		

評価観点・項目			評価内容	4	3	2	1	平均	評価	現状分析と今後の取り組み	学校関係者評価
③知識・技術の習得 臨機応変に対応する力	11	学生	対象の意思や価値観、ライフスタイルなどを考慮して看護を実践できる	5	27	0	1	3.1	B	○知識・技術の習得についてはすべての学生評価は3.0を超えており、満足できる結果となっている。	・知識・技術の習得は全ての項目について学生評価がBとなり、ほぼ満足できる結果が出ている。 ・11と12に評価１と答えている学生が1人ずつある。同一の学生かはわからないが、この少数の学生に対しても「なぜできなかったのか」、「どのようにすればよかったのか」等の振り返り指導を行い、取りこぼしのない指導をお願いしたい。 ・評価観点に「臨機応変に対応する力」とあるが、それを評価する設問が見当たらないように思う。
		教員	対象の意思や価値観、ライフスタイルなどを考慮して看護を実践できるよう指導している	4	4	0	0	3.5	A		
	12	学生	対象の健康状態を把握するために情報を多角的に収集しアセスメントできる	8	23	1	1	3.2	B		
		教員	対象の健康状態を把握するために情報を多角的に収集しアセスメントできるよう指導している	3	5	0	0	3.4	A		
	13	学生	原理・原則に基づいて対象に安全かつ安楽な看護を提供できる	11	21	1	0	3.3	B		
		教員	原理・原則に基づいて対象に安全かつ安楽な看護を提供できるよう指導している	6	2	0	0	3.8	A		
	14	学生	看護学・医学などの専門的知識に基づいて対象の健康問題を把握できる	6	25	2	0	3.1	B		
		教員	看護学・医学などの専門的知識に基づいて対象の健康問題を把握できるよう指導している	5	3	0	0	3.6	A		
	15	学生	対象の発達段階に関心を向けながら、日々の看護を実践できる	9	24	0	0	3.3	B		
		教員	対象の発達段階に関心を向けながら、日々の看護を実践できるよう指導している	5	3	0	0	3.6	A		
	16	学生	対象の家族や重要他者を含めて看護を実践できる	7	23	3	0	3.1	B		
		教員	対象の家族や重要他者を含めて看護を実践できるよう指導している	4	4	0	0	3.5	A		
	17	学生	対象がもつ様々な生活背景を理解したうえで看護を実践できる	7	26	0	0	3.2	B		
		教員	対象がもつ様々な生活背景を理解したうえで看護を実践できるよう指導している	3	5	0	0	3.4	A		
	18	学生	家庭、労働、学習環境など、対象が生活する場を理解したうえで看護を実践できる	5	28	0	0	3.2	B		
		教員	家庭、労働、学習環境など、対象が生活する場を理解したうえで看護を実践できるよう指導している	4	4	0	0	3.5	A		
④自己研鑽	19	学生	社会情勢やその変化に関心を向けている	4	20	9	0	2.8	C	○質問項目19は学生、教員共に3.0を下回っている。少子高齢化や健康問題の変化等社会の変化に伴って政策の変更など医療を取り巻く状況も変化する。変化に目を向け、対応できる人材を育成が課題である。 ○教科の中では法規などを取り上げているが、社会の中でどのように扱われているのか、というところまで発展できてないと考える。今後の課題である。	・学生は同世代の人とのコミュニケーションは多いが、異世代の人や社会の情勢には関心が薄いと思う。日本において社会の変化がどのように進んでいるか、様々なメディアや異世代の方々との出会い、交流等から積極的に学ぶことが、今後の看護にも役立つと考える。 ・19の学生の回答は、全ての項目の中で一番低い評価が出ている。新型コロナの未知の感染症の流行等、実際に起こったパンデミックの事象をうまく捉え、学生に考える力を育む指導が必要である。 ・19は④自己研鑽より③臨機応変に対応する力の内容の方が妥当ではないか。
		教員	社会情勢やその変化に関心を向けているよう指導している	0	7	1	0	2.9	B		
	20	学生	人々の健康に関わる職業についていることの責任を自覚している	12	19	1	1	3.3	B		
		教員	人々の健康に関わる職業についていることの責任を自覚しているよう指導している	7	1	0	0	3.9	A		
	21	学生	看護師として看護上の問題を解決するために知識や理論を深める努力をしている	8	23	2	0	3.2	B		
		教員	看護師として看護上の問題を解決するために知識や理論を深められるよう指導している	6	2	0	0	3.8	A		
	22	学生	保健医療システムの理解に努めている	3	27	3	0	3.0	B		
		教員	保健医療システムの理解ができるよう指導している	1	6	1	0	3.0	B		
⑤考える力の育成	23	学生	自分が果たすべき役割を理解し、役割を確実に遂行している	5	28	0	0	3.2	B	○学生評価が3.0を超えていることから、概ね満足できる結果である。 ○評価番号23の②の学生評価が3.0であるが教員評価は3.8と大きな乖離がある。評価番号23の①から、問題解決のための方法を理解し実行しているが、相手に「伝える」ことが充分にできていないのではないかと考える。	・知識の定着や深まりに向けて、興味関心や探究的な態度、自学自習の姿勢などが強く求められる。高校時から身につけておく必要があると思う。 ・特に双方向のコミュニケーションに苦手意識があるのかもしれない。発表のみならず、質疑応答、意見交換の機会を増やしていくことも必要ではないか。 ・学生評価、教員評価ともに満足できる結果となっている。 ・23の②において学生と教員の評価に解離が見られる。伝えることができていないと推測するのであれば、伝える場所と方法について指導する必要があると考える。
		教員	自分が果たすべき役割を理解し、役割を確実に遂行できるよう指導している	6	2	0	0	3.8	A		
		学生	① 興味関心を持ったことを文献やインターネットを適切に活用し、納得がいくまで調べる	7	24	2	0	3.2	B		
		教員	① 興味関心を持ったことを文献やインターネットを適切に活用し、納得がいくまで調べられるよう指導している	3	5	0	0	3.4	A		
		学生	② 自分の考えを文献などを活用しながらまとめ、対象者に伝えられる	3	27	3	0	3.0	B		
		教員	② 自分の考えをまとめ、対象者に伝えられるよう指導している	6	2	0	0	3.8	A		
	24	学生	客観的に物事をとらえ筋道を立てて看護上の問題を解決できる	4	28	1	0	3.1	B		
		教員	客観的に物事をとらえ筋道を立てて看護上の問題を解決できるよう指導している	5	3	0	0	3.6	A		
	25	学生	自己評価を常に行い、評価に基づいて学習を継続している	4	28	1	0	3.1	B		
		教員	自己評価を常に行い、評価に基づいて学習を継続できるよう指導している	3	5	0	0	3.4	A		

２　カリキュラムポリシー

４：とても当てはまる　３：ある程度当てはまる　２：あまり当てはまらない　　１：全くあてはあらない

評価項目			評価内容	4	3	2	1	平均	評価	現状分析と今後の取り組み	学校関係者評価
①主体的な問題解決能力の育成	1	学生	自分から学習するように課題が提供されている	3	24	5	1	2.9	B	○評価番号１の課題について学生評価が低い。課題は提供しているが、教員の評価からも、自ら学習するような指導にはなっていないと考える。課題の提出の仕方も問題であると考え、工夫が必要である。	・看護専攻科では主体的な学びが基本となるので、高校時から身につけたい資質である。 ・1，2，3の設問に対して「1」「2」と回答している学生が9～18%いる。主体的な能力育成をめざして、さらなる指導力の強化が求められる・
		教員	自分から学習するような課題を提供する工夫をしている	2	5	1	0	3.1	B		
	2	学生	問題を明確にし、解決する力がつくような授業が展開されている	3	26	4	0	3.0	B		
		教員	問題を明確にし、解決する力がつくような授業を展開している	0	7	1	0	2.9	B		
	3	学生	授業はわかりやすい	3	27	3	0	3.0	B		
		教員	わかりやすい授業を行い学習内容の理解や定着に努めている	1	6	1	0	3.0	B		
②専門知識・態度の定着	4	学生	専門的な知識・技術が身につく授業が展開されている	4	27	2	0	3.1	B	○専攻科の1年間でほとんどの講座を修了するためには、1つの科目が終了すると、すぐ次の講座を始めなければならないので、過密スケジュールとなっている。よって効果的ではないと自覚しながらも、教員がそのフォローを行っている現状がある。 ○今後も高校課程で学んだことを復習しながら、学習目標を達成できるように工夫していく必要がある。	・看護専攻科では主体的な学びが基本となるので、高校時から身につけたい資質である。 ・外部講師の関係で、カリキュラムが過密になっている現状で、学生たちはよく頑張っていると思う。 ・もう少し高校課程での学びが専攻科での基本となっている事を実感できるような工夫があれば、と考える。
		教員	専門的な知識・技術が身につくよう指導している	4	4	0	0	3.5	A		
	5	学生	高校課程で学んだことを活かしながら学習が進められる	5	22	5	1	2.9	B		
		教員	高校課程で学んだことを活かしながら学習が進めらるよう授業展開をしている	3	3	2	0	3.1	B		
	6	学生	カリキュラムは効果的に学習が進められるように編成されている	3	23	7	0	2.9	B		
		教員	カリキュラムは効果的に学習が進められるように編成されている	2	2	4	0	2.8	C		
③教育環境の整備	7	学生	学習するための教材や図書は十分である	5	19	9	0	2.9	B	○学習環境の調整が不十分である。昨年12月にパソコンを導入された。今後はインターネットとつなぎ、授業等での活用ができ環境を整えていく予定である。 ○学生が相談しやすい環境を整えていく必要がある。	・悩み、学習での疑問などを持つ学生を、一人として漏らすことなく受け止めていく体制づくりは、今後とも継続して取り組む課題であると思う。各年度ごとに具体的な対応策を練り、実践し、改善を加えていってもらいたい。 ・９において「２」と回答している学生が約2割いる。担任だけでなく学生に関わる全ての教員がカウンセリングマインドで面談を実施する必要がある。
		教員	学習するための教材や図書は十分に提供している	1	7	0	0	3.1	B		
	8	学生	個別指導・進路相談など学生をサポートする体制が整っている	2	25	6	0	2.9	B		
		教員	個別指導・進路相談など学生をサポートする体制が整っている	2	6	0	0	3.3	B		
	9	学生	先生に学習や心身の健康上の悩みを相談しやすい	1	25	7	0	2.8	B		
		教員	学生が学習や心身の健康上の悩みなどを相談しやすい体制を整えている	1	7	0	0	3.1	B		
④地域で暮らす人々の理解と貢献	10	学生	地域を活用した実習施設が充実している	3	28	2	0	3.0	B	○地域との連携を自覚し、実習等の学習に取り組んでいることが学生の評価からわかる。今後も地域を大切にした学習活動を継続していきたい。	・学生・教員ともに地域との連携を理解し、活用した学びや指導が行われている。
		教員	地域を活用した実習施設を利用し、地域の人々への理解が深まるようにしている	3	4	1	0	3.3	B		
	11	学生	病院や施設での実習内容が充実している	6	26	1	0	3.2	B		
		教員	学生が病院や施設での実習内容に満足できるように体制を整えている	2	6	0	0	3.3	B		
		教員	実習施設や関係施設などと連携がとれるように体制を整えている	2	6	0	0	3.3	B		

○全般的に

・①看護専攻科のスクール・ポリシーについて学生・教師それぞれの評価が対応して示されていること、②学生と教師の評価結果を対比されている、この2点で良いまとめ方である。このため、学校評価において課題を的確にとらえることができた。